

「証券化市場の動向調査」

～2006年度の発行動向～

以下は、日本証券業協会及び全国銀行協会が毎月実施している「証券化市場の動向調査」（日本証券業協会ホームページ<<http://www.jsda.or.jp/>>参照）について、2006年度（2006年4月～2007年3月）の結果を取り纏めたものです。

図表データについては、別紙をご参照ください。また、参考として、『証券化市場の動向調査』における項目毎の記載割合」を取り纏めています。

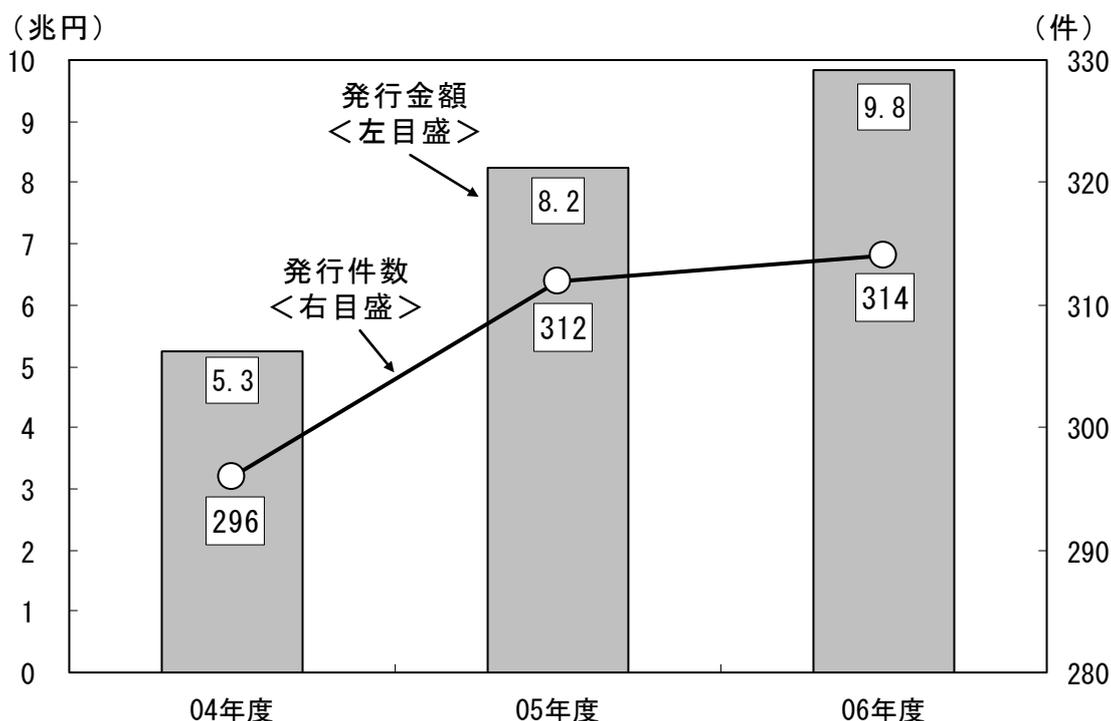
1. 証券化商品全体の発行動向

2006年度における証券化商品の発行金額は9.8兆円※となり、調査開始（2004年度）以来最大の規模となった（図表1）。

件数ベースでは、ほぼ横ばい（2005年度312件→2006年度314件）であるものの、1件当たりの発行金額が大口化した（1件当たりの平均発行金額：同264億円→同313億円）。

※ 普通社債の発行金額（6.8兆円）や、REIT（Real Estate Investment Trust）の資産（不動産）取得金額（2.0兆円）と比べても大きな金額となった。

（図表1）証券化商品の発行金額、発行件数

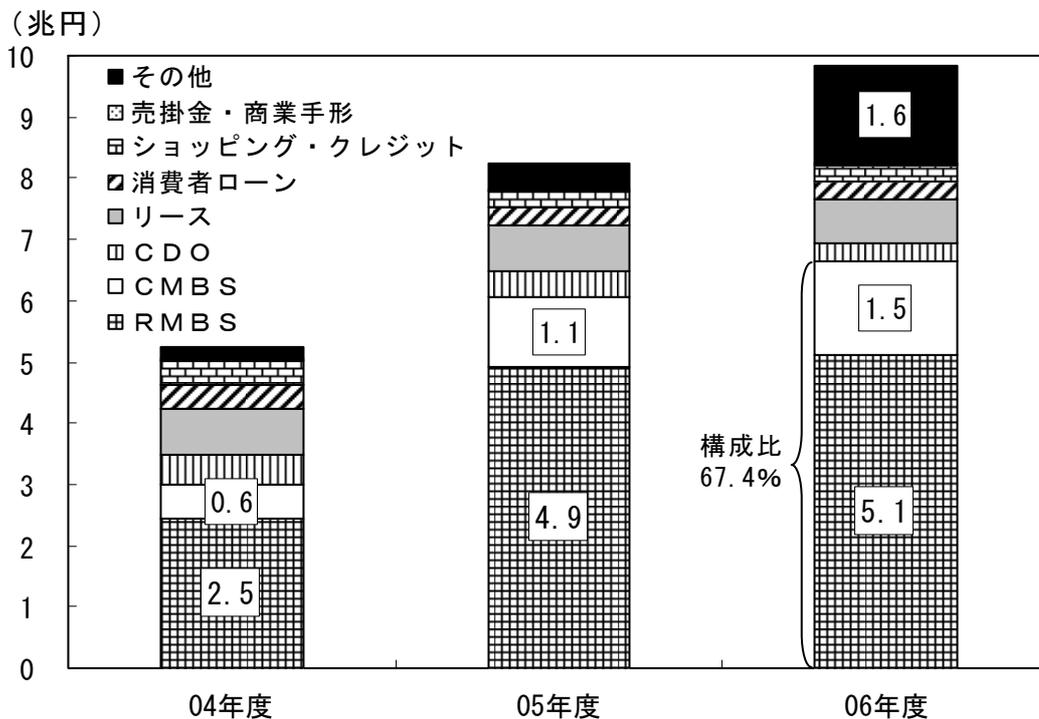


2. 裏付資産別の発行動向

2006年度における証券化商品の発行金額を「裏付資産」別にみると、住宅ローン債権等を裏付資産とした「RMBS (Residential Mortgage Backed Securities)」が5.1兆円と最も多く、次いで「その他」(1.6兆円)、商業用不動産担保ローン債権等を裏付とした「CMBS (Commercial Mortgage Backed Securities)」(1.5兆円)となった(図表2)。

「その他」は、「事業から創出されるキャッシュフロー」を裏付とした大口案件が発行されたことから、比較的大きな金額となった。また、RMBS、CMBSの2タイプで発行金額全体の67.4%を占めた。

(図表2) 証券化商品の発行金額(「裏付資産」別)※



※ 裏付資産の具体的な分類は、以下のとおり。

「RMBS」: 住宅ローン債権、アパートローン債権

「CMBS」: 商業用不動産担保ローン債権、商業用不動産

「CDO (Collateralized Debt Obligations)」: 企業向け貸付債権、社債、CDS等

「リース」: リース料債権

「消費者ローン」: 消費者ローン債権、カードローン債権

「ショッピング・クレジット」: ショッピング・クレジット債権、オートローン債権

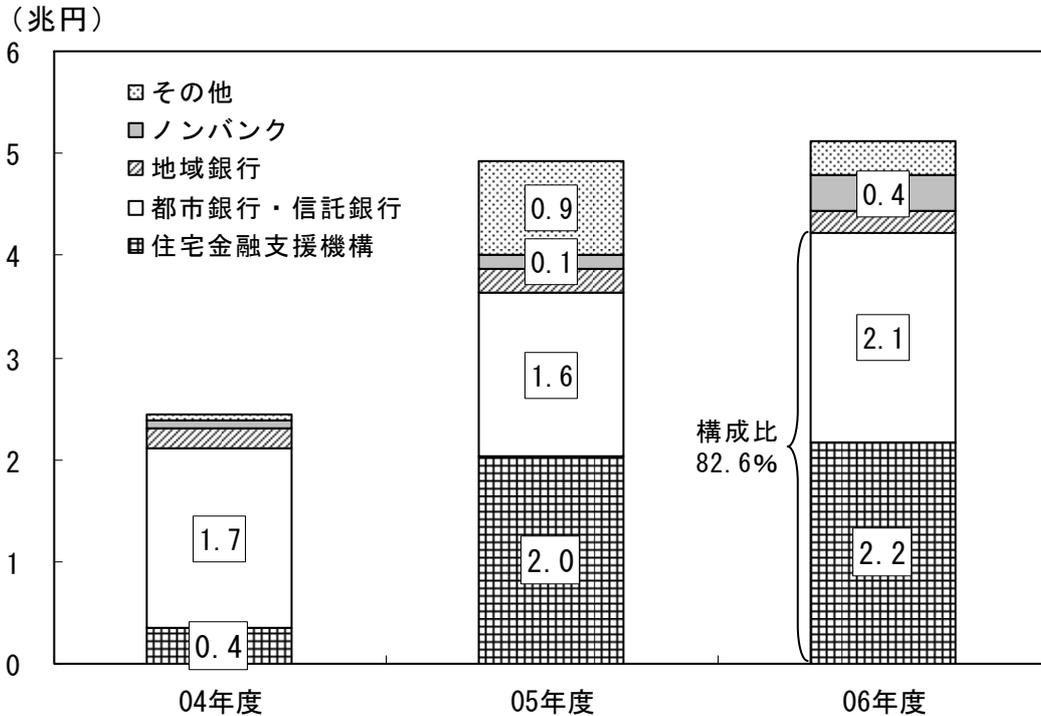
「売掛金・商業手形」: 売掛債権、手形債権

「その他」: 事業キャッシュフロー、診療報酬債権等

(1) RMBS

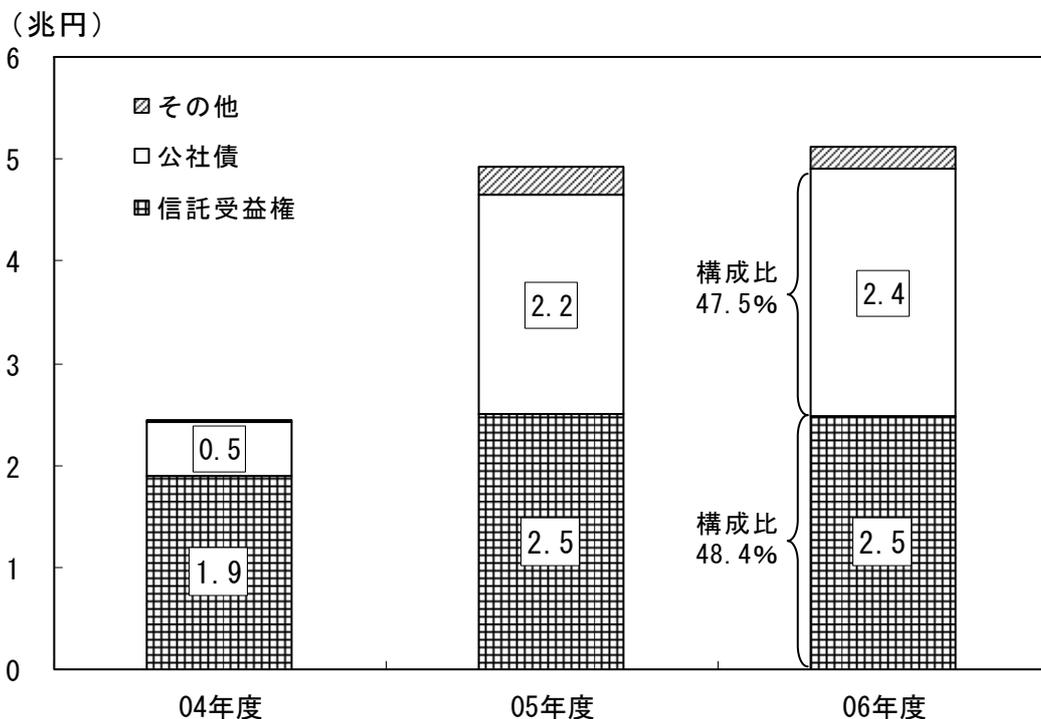
- ・ RMBSの発行金額（5.1兆円）を「オリジネーター」別にみると、「住宅金融支援機構（旧住宅金融公庫）」（2.2兆円）と「都市銀行・信託銀行」（2.1兆円）が全体の82.6%を占め、前年度（住宅金融支援機構 2.0兆円、都市銀行・信託銀行 1.6兆円）対比でも増加した（図表3）。また、「ノンバンク」（同 0.4兆円）についても、前年度（0.1兆円）対比大幅な増加となった。

（図表3）RMBSの「オリジネーター」別発行金額



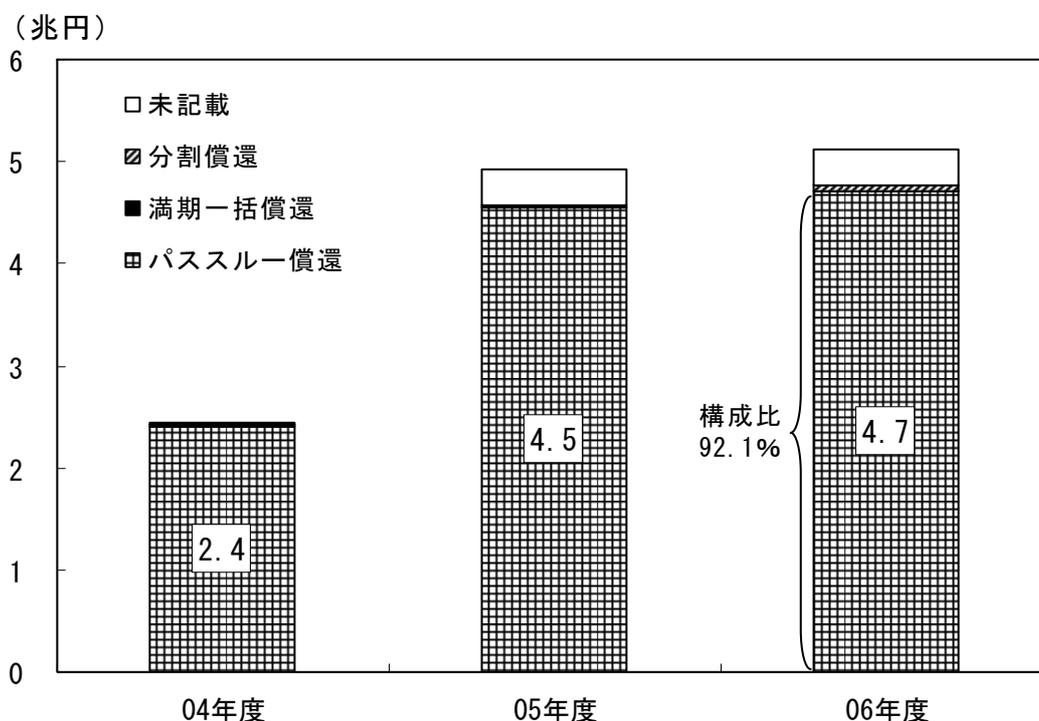
- ・ RMBSの発行金額（5.1兆円）を「発行形式」別にみると、「信託受益権」（2.5兆円）、「公社債」（2.4兆円）がともに半分近くを占めており、前年度対比では、「公社債」が僅かに増加した（図表4）。

（図表4）RMBSの「発行形式」別発行金額



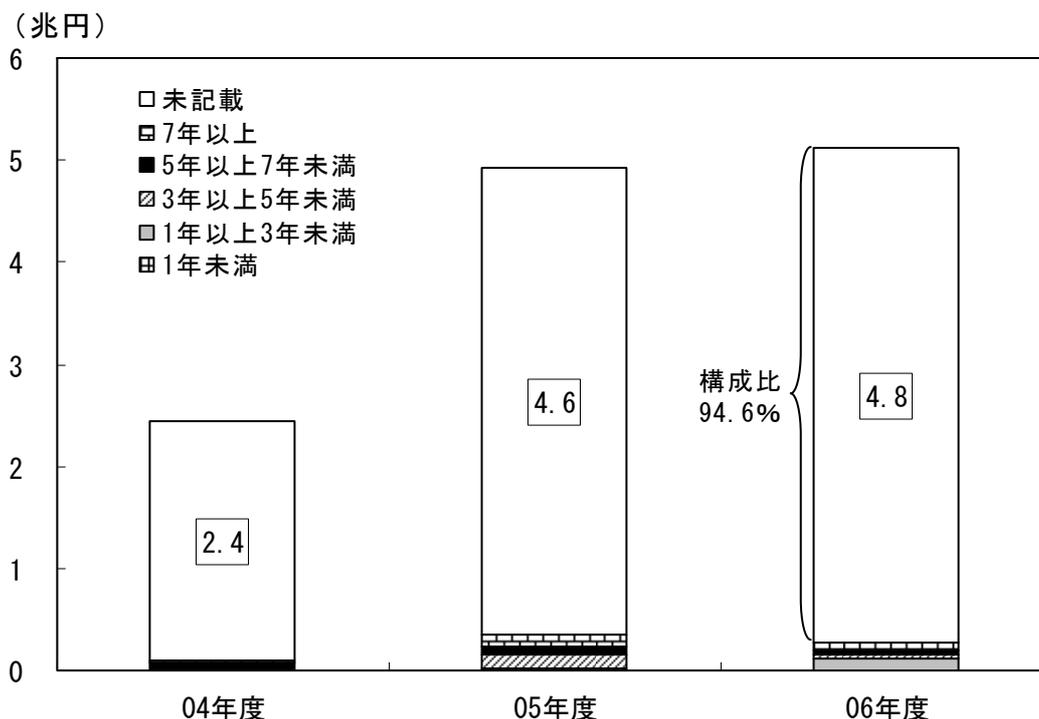
- ・ RMBSの発行金額（5.1兆円）を「償還方法」別にみると、「パススルー償還（裏付資産の回収実績に連動して元本が償還される）」（4.7兆円）が全体の92.1%を占めた（図表5）。

（図表5）RMBSの「償還方法」別発行金額



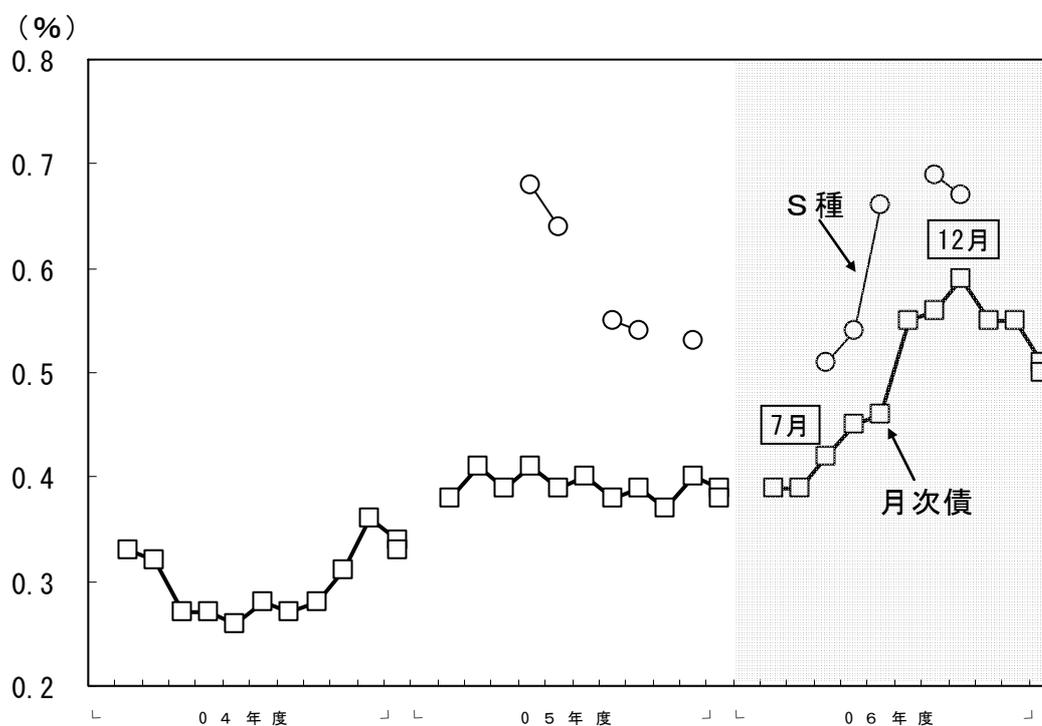
- ・ RMBSの発行金額（5.1兆円）を「予定／平均年限（満期一括償還の場合は予定償還年限。分割償還が行われる場合は平均償還年限）」別にみると、「未記載」（4.8兆円）が全体の94.6%を占めたが、記載のあるなかでは、「1年以上3年未満」（0.1兆円）が最も多くなった（図表6）。

（図表6）RMBSの「予定／平均年限」別発行金額



- 住宅金融支援機構（旧住宅金融公庫）RMBSのローンチスプレッド（表面利率と、条件決定時の国債利回りとの差）をみると、昨年夏場以降年末にかけて拡大した後、年明け後は縮小に転じた（図表7）。

（図表7）住宅支援機構（旧住宅金融公庫）RMBSのローンチスプレッド

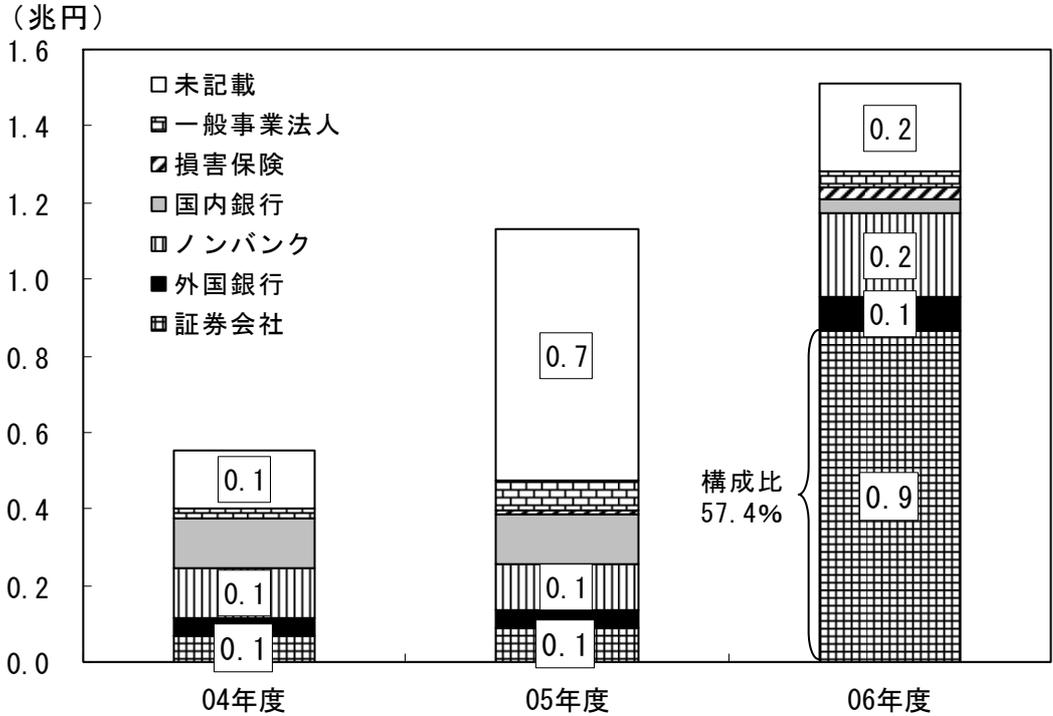


※「S種」は、旧住宅金融公庫が過去に直接実行した住宅ローンを証券化した債券。

(2) CMBS

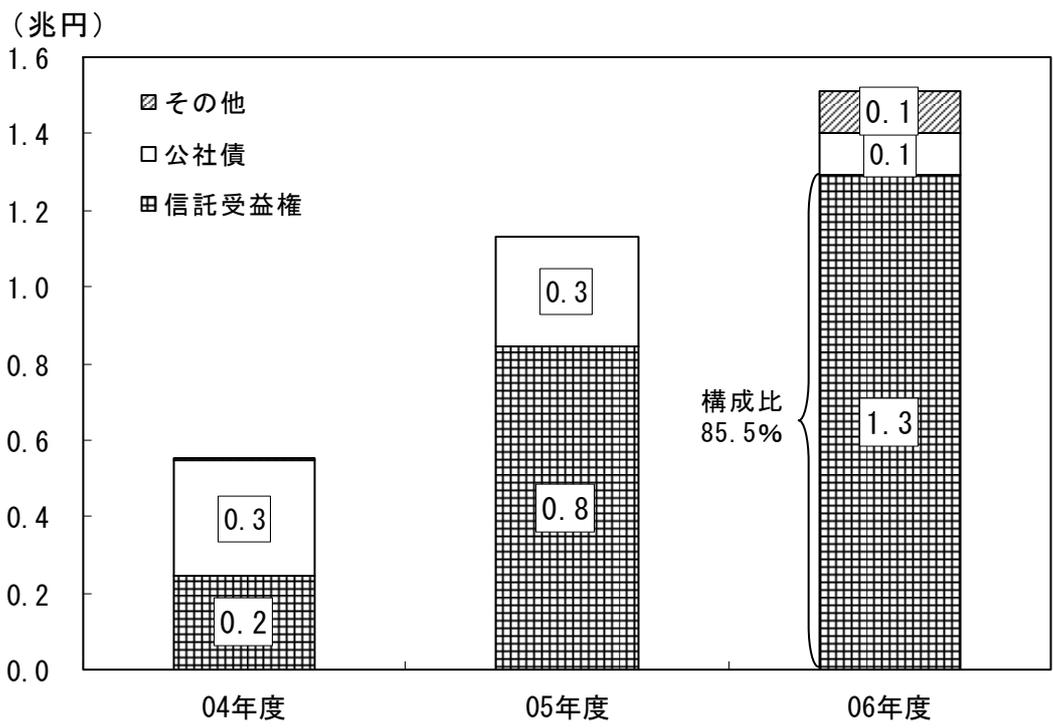
- CMBSの発行金額（1.5兆円）を「オリジネーター」別にみると、「証券会社」が0.9兆円と全体の57.4%を占め、前年度（0.1兆円）対比大幅な増加となった（図表8）。次いで、「未記載」（0.2兆円）、「ノンバンク」（0.2兆円）となった。

(図表8) CMBSの「オリジネーター」別発行金額



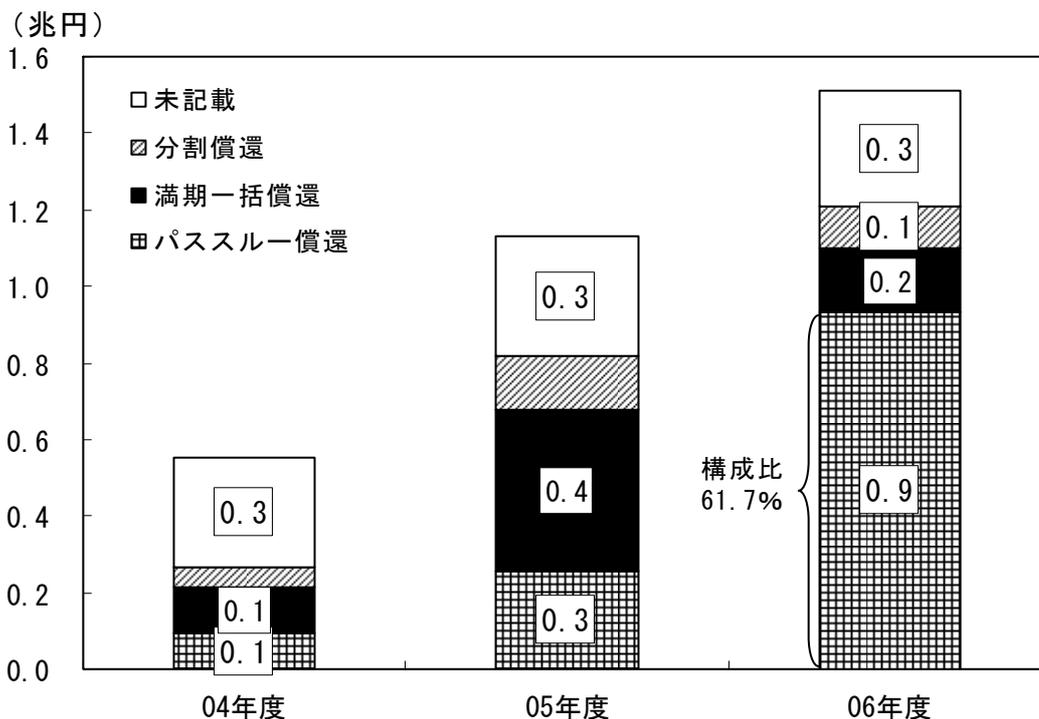
- CMBSの発行金額（1.5兆円）を「発行形式」別にみると、「信託受益権」が1.3兆円と全体の85.5%を占め、前年度（0.8兆円）対比大幅な増加となった（図表9）。

(図表9) CMBSの「発行形式」別発行金額



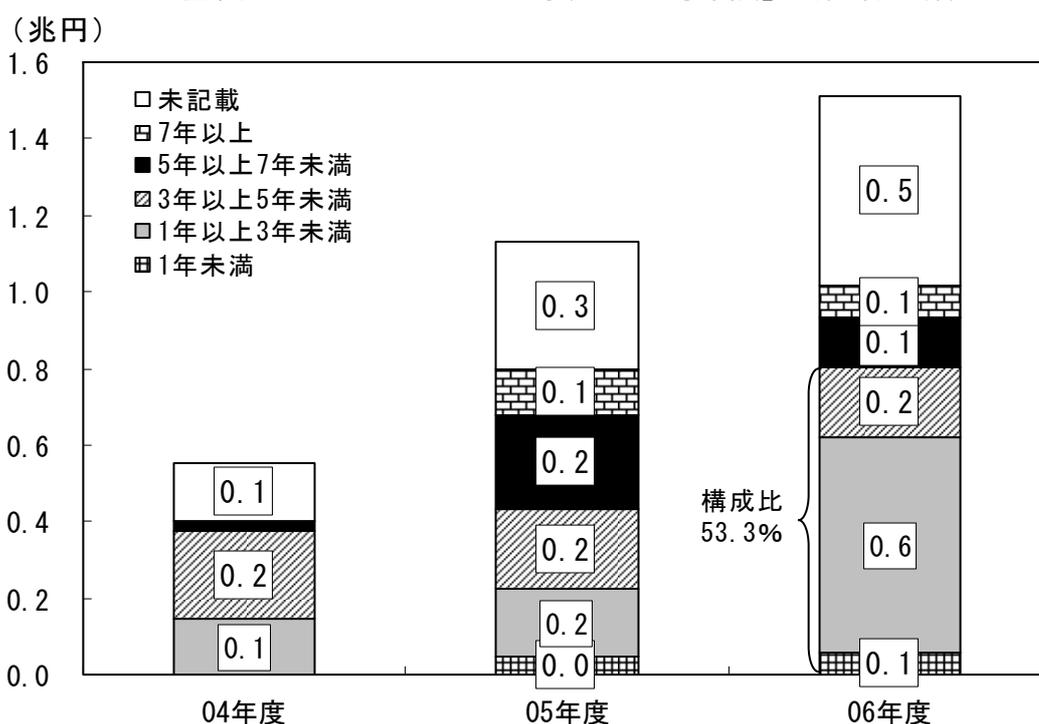
- ・ CMBSの発行金額（1.5兆円）を「償還方法」別にみると、「パススルー償還」が0.9兆円と全体の61.7%を占め、前年度（0.3兆円）対比大幅な増加となった（図表10）。

（図表10）CMBSの「償還方法」別発行金額



- ・ CMBSの発行金額（1.5兆円）を「予定／平均年限」別にみると、「1年以上3年未満」が0.6兆円と最も多く、次いで「未記載」（0.5兆円）、「3年以上5年未満」（0.2兆円）となった（図表11）。5年未満の構成比が53.3%となり、記載のあるなかでは大宗を占めた。

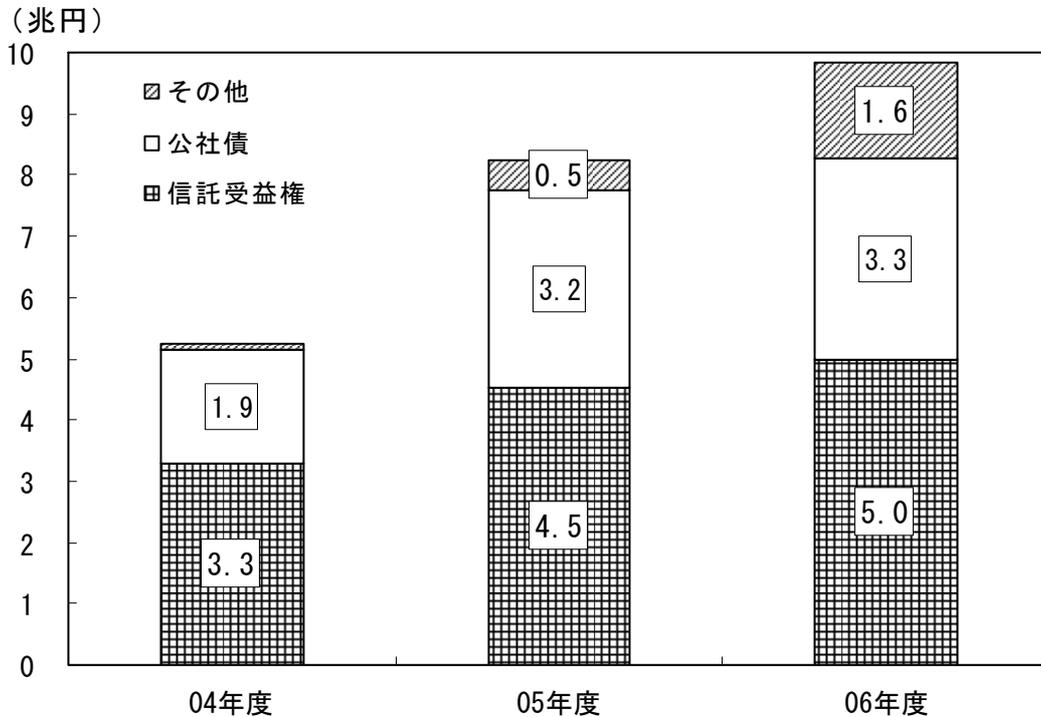
（図表11）CMBSの「予定／平均年限」別発行金額



3. 発行形式別の発行動向

- 2006年度における証券化商品全体の発行金額（9.8兆円）を「発行形式」別にみると、「信託受益権」が5.0兆円、「公社債」が3.3兆円*となった（図表12）。
 * うち住宅金融支援機構（旧住宅金融公庫）RMBSが2.2兆円。

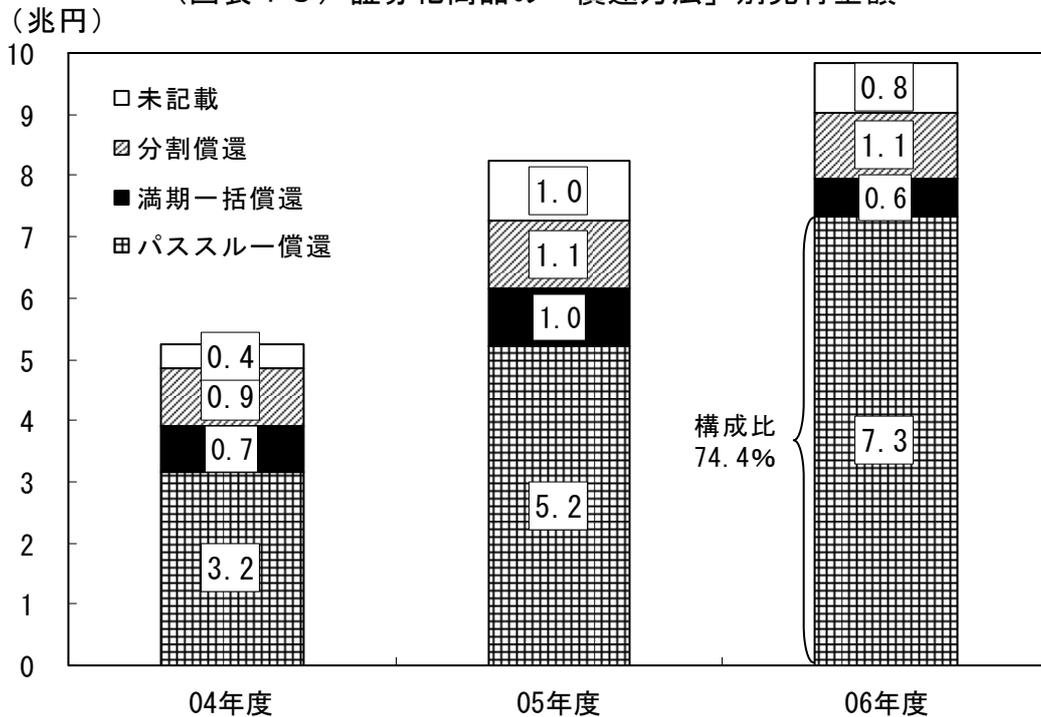
（図表12）証券化商品の「発行形式」別発行金額



4. 償還方法別の発行動向

- 2006年度における証券化商品全体の発行金額（9.8兆円）を「償還方法」別にみると、「パススルー償還」が7.3兆円と全体の74.4%を占め、次いで「分割償還」（1.1兆円）、「未記載」（0.8兆円）、「満期一括償還」（0.6兆円）となった（図表13）。

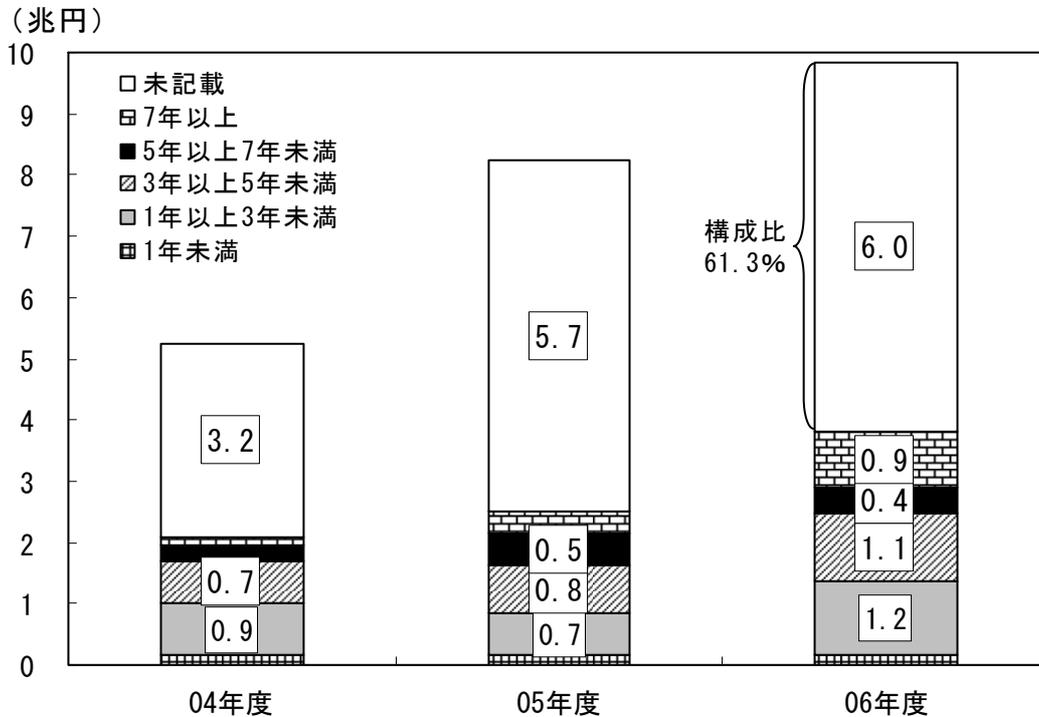
（図表13）証券化商品の「償還方法」別発行金額



5. 予定／平均年限別の発行動向

- 2006年度における証券化商品全体の発行金額（9.8兆円）を「予定／平均年限」別にみると、「未記載」が6.0兆円と全体の61.3%を占めたが、記載のあるなかでは、「1年以上3年未満」（1.2兆円）、「3年以上5年未満」（1.1兆円）が多くなった（図表14）。

（図表14）証券化商品の「予定／平均年限」別発行金額



6. 格付別の発行動向

- 2006年度における証券化商品全体の発行金額（9.8兆円）を「格付」別にみると、「AAA」が7.3兆円と全体の74.7%を占めた（図表15）。

（図表15）証券化商品の「格付」別発行金額

